

地域高規格道路 松本系魚川連絡道路 比較4ルート

選定した4ルートの評価

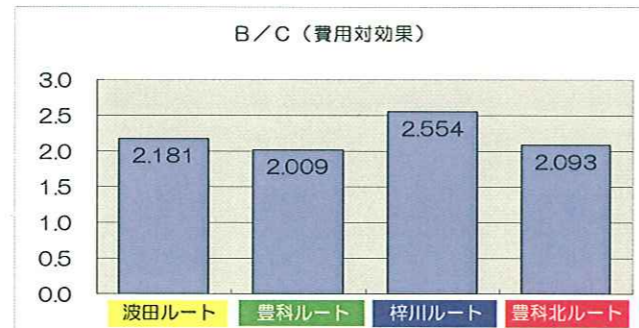
比較4ルートに対して、費用対効果・所要時間・地域効果の指標別評価、また、概算の事業費についてそれぞれ評価した上で、総合的な評価をおこないました。

指標別評価

1) B/C (費用対効果)

選定ルートをB/C指標で評価

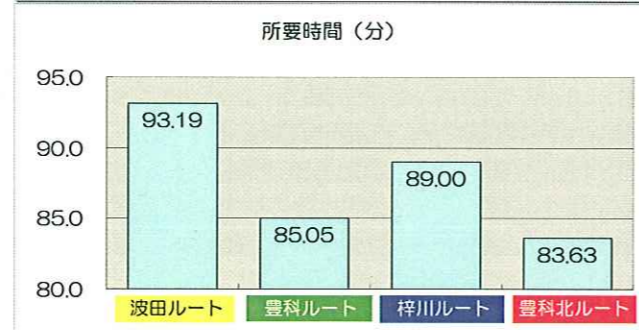
- すべてのルートで概ね2.0以上の高い投資効果を確認できました。
- 梓川ルートが最も投資効果が高くなりました。



2) 県境から松本JCT (仮) までの所要時間

選定ルートを所要時間で評価

- 豊科北ルートが最も所要時間が短くなりました。
- 最大で相対的に約10分の開きがありました。



3) 地域効果

選定ルート毎、間接的に得られる整備効果で評価

- 下記の指標毎、重み付けをした上で平均値に対する割合を総合した値で比較しました。

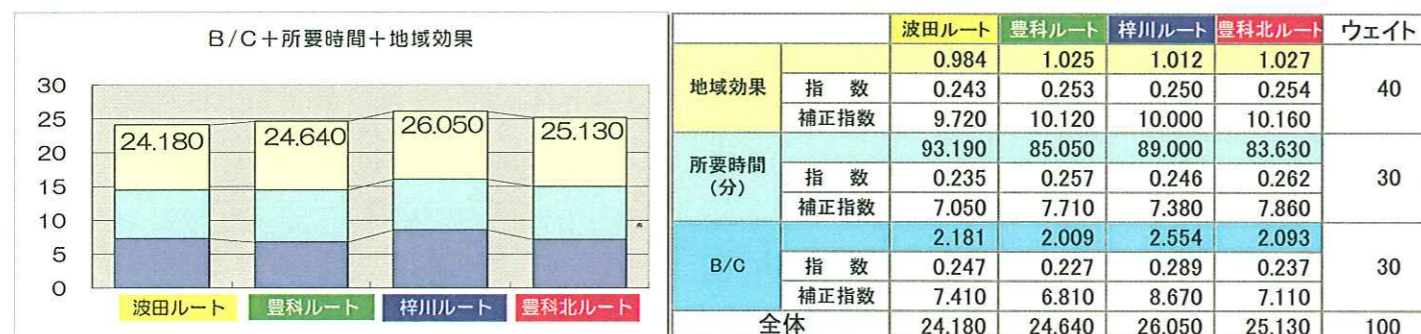


■地域効果とは：道路整備により間接的に得られる次の項目により評価しています。

- 【環境】◇ CO2排出量 ◇ Nox排出量 ◇ 景観阻害延長
- 【生活】◇ ICカバー圏域人口 ◇ 行政拠点間の総短縮時間 ◇ 松本市を起点とした移動時間 ◇ 二次医療機関のカバー圏域人口
- 【産業】◇ 国営公園間の移動時間 ◇ ICから国営公園までの所要時間 ◇ ICから主な工業団地までの所要時間 ◇ ICから主な観光施設までの所要時間

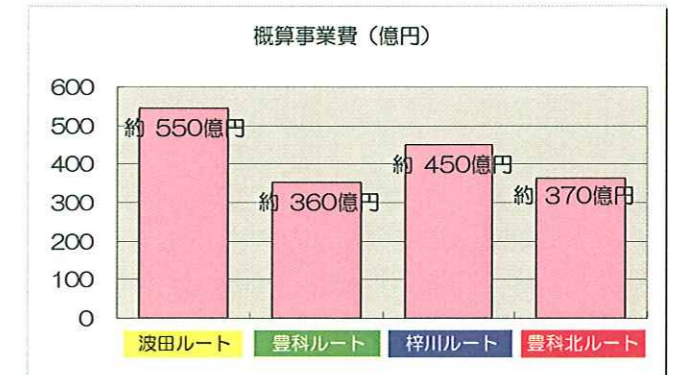
4) B/C+所要時間+地域効果

- 前述した3つの指標に重み付けを行い、総合点で比較しています。
- もっとも高い評価が得られたのは梓川ルートでしたが、全体的に2.5ポイント前後と大きな差異はありませんでした。



概算事業費による評価

概算事業費は整備延長により異なります。最も安い豊科ルートと最も高い波田ルートとの差額は約190億円となります。



総合評価

各ルート案とも実現性などにおいて、今後のさらなる調査・検討や手続きが必要となるものの、地域高規格道路としての実現性を考慮する中では次の点から相対的に評価できます。

- 道路構造 — 「立体化やバイパス化に伴う地域課題の面から豊科北ルートが有利」
高速性を確保するためには、構造上、立体化やバイパス化が必要となるが、特に安曇野地域については次の理由から困難
 - ・盛土構造：盛土構造による道路の築造は、観光資源としての価値や評価の高い田園風景の広がる安曇野地域の景観阻害、地域の分断、土地利用等の面から地域への影響が極めて大きい
 - ・掘削構造：わさび栽培が盛んな安曇野地域においては、工事に伴うわさび田に必要な湧水等地下水への影響、地域の分断、土地利用等の面から掘削による道路築造は困難
 - ・高架構造：現在の道路を活用する区間における交差点等の高架（橋梁）化は、景観阻害、さらに多くの物件移転等、沿道住民への影響が極めて大きい
 - ・バイパス化：集落が形成されている地域では特に、地域を分断してしまう懸念や、多くの物件移転が必要となるなど、地域への影響が極めて大きい
 - 地域の課題への影響 — 「豊科ルート、梓川ルートは交通の誘導により新たな交通集中を招くなど、実現にあたって課題が大きい」
 - ・豊科ルートは、渋滞が問題となっている豊科IC付近に交通を誘導するため、更なる交通集中を招くおそれがあり、安曇野市街地への影響も含め懸念が大きい
 - ・梓川ルートは、安曇野市街地の中に交通を誘導するおそれがあり、地域への影響が極めて大きい
 - 建設コスト — 「経済性では豊科ルート、豊科北ルートが有利」
 - ・整備延長が短く、生活道路等の交差点部の立体化の必要が少ない豊科ルート、豊科北ルートは、建設コストの面から有利
 - ネットワーク機能 — 「道路のネットワーク上、広域的な高速道路網の機能は確保される」
 - ・すでに長野自動車道が整備されている松本・安曇野地域においては、これを活用することで高速交通ネットワークとしての機能を満たすことが可能
- ↓
- 地域高規格道路としての意義 — 「豊科北ルートが有利」
 - ・地域高規格道路本来の意義である高速性確保の観点から、既存の高速道路網と最短距離でアクセスし、また景観・自然環境への負荷や地域への影響が最も少ない豊科北ルートが有利

以上により、**長野県としては、現時点において「豊科北」ルートを一番有利な案と評価しました。**

豊科北ルートは、長野県が現調査時点において一番有利と評価している案です。今後さらに協議・検討を行い、県として最終的なルートを絞り込んでまいります。

- 地域の皆様のご意見・ご提案をお伺いします
- 計画の実現に向け、さらに調査や検討を行います
- 関係する機関と、必要な協議を進めます

(ルートや構造について)

今回のルート検討は大きな図面上での概略の検討であり、道路が実際にどこをどのように通るのか、また道路構造がどのようになるのかについては具体的に決まったものではありません。今後、ルートを絞り込んだ時点で、さらに具体的な検討をしてまいります。